

小倉金之助 きんすけ 数学者、理學博士。明治十八年二月十四日山形縣
海田生れ、昭和二十七年十月二十一日歿（八五—九六）。明治二十八
年東京物理學校卒業。東京帝國大學理科大學中退後歸郷、家業の傍ら林
鶴一の指導で數學に志す。四十四年『東北數學雜誌』の創刊から編輯
に従事、大正六年鹽見理化學研究所所員（十四年所長）、昭和十五年
東京物理學校理事、二十一年氏主主義科學者協會初代會長、二十二年
の本科学史學會會長。

著書 『中等教育のその應用』（津村文次郎共著、大正九年四月十五日
積善館）、『唯物史觀序説』（合著・プロレタリア科學研究所編、昭
和五年三月十五日プロレタリア科學研究所、鐵塔書院發賣）、『數學
教育史』（昭和七年六月二十五日岩波書店）、『數學史研究』（第一
輯・昭和十年十一月十五日、第二輯・二十二年十一月二十五日岩波書
店）、『科學的精神と數學教育』（昭和十二年七月五日岩波書店）、
『家計の數學』（昭和十二年十一月二十日岩波書店、「岩波新書」）、
『日本の數學』（昭和十五年二月二十日岩波書店、「岩波新書」）、『計
算圖表』（昭和十五年十月十五日岩波書店、「岩波全書」）、『戦時下
の數學』（國民學術協會編、昭和十九
年十一月十日創元社）、『科學の指標』
（昭和二十一年八月、二十日中央公論
社）、『明治時代の數學』（日本に於け
る近代の數學の成と過程）（『昭和二十
一年九月十五日理學社「數學と文庫」）、
『數學者の回想』（昭和二十五年四月、二十八日河出書房）、『わが師



わが友』(合著、昭和二十六年七月二十一日筑摩書房)、可學生と讀
書』(合著・櫻沼茂樹編、新裝版・昭和二十一年二月十日河出書房「河
出新書」)、ロ「数学者の肖像』(昭和二十一年十一月十五日社会意
想研究会出版部「現代教養文庫」)、可読書と人間』(昭和二十一年
一月二十日角川書店「角川新書」)、ロ「数学者の回想』(昭和四十
二年四月二十日筑摩書房「筑摩叢書」)等。